

 仙台ノイエタンツ研究所

創立60周年

現代舞踊公演・第40回ジュニア公演

 仙台ノイエタンツ研究所

主催／仙台ノイエタンツ研究所

後援／仙台市教育委員会・ 河北新報社・TBC東北放送・ 仙台放送



千尋 洋子

仙台ノイエタンツ研究所主宰
宮城県洋舞団体連合会副会長
(社)現代舞踊協会東北支部顧問

緑色濃く美しい季節がめぐってまいりました。
その木々は昨年の大震災にも負けず勢いよく、たくましく、私達を元気づけてくれています。
当研究所は本年60周年の還暦を迎えます。
めぐりめぐっての60年、振り返ってみますとよくここまで歩いて来ることが出来たなと思います。
改めて大勢の皆様のお力添え、ご協力があったのことに感謝御礼申し上げます。
戦後世の中が混沌としており毎日食べることに精一杯の中での子どもたちは本当に可愛そうでした。何とか子どもの心に潤いと希望を持たせたい、との願いから研究所を設立いたしました。
当時は、レオタード・タイツ等なく、手製の練習着でした。
しかし生徒は元気よく目を輝かせてレッスンしておりました。
古いプログラムを見なおすと、今は孫もいる生徒も愛らしい顔をしていて当時は思い出させます。
平成17年に逝去した春日静枝と弟布山正直も今日の日を喜んでいてくれると思います。
これから先終わりのない道をどこまで歩いて行くことができるのかわかりませんが、自分なりに出来る事で頑張っていこうと思っています。
60年の皆様のお力添えに心より御礼申し上げます。
今後あとに続く若いものたちのためご指導ご協力をお願いいたしごあいさつ申し上げます。

仙台ノイエタンツ研究所 千尋 洋子



大友 悦夫

仙台ノイエタンツ研究所後援会会長

仙台ノイエタンツ研究所60周年、第40回ジュニア公演おめでとうございます。
60年の時間の長さを考えると、研究所が研究生はもとより、関係者、そして、われわれ市民に人生の契機や、広がりを与えた影響、感化という点で、想像を絶するものがあります。すべての時間の流れの中に、“新しい出発”があり、われわれの生きている時間は“終わりなきはじまり”の連続で、そういう発想の自由さを研究所は当初から研究生をはじめとするわれわれに及ぼし続けていたように思います。
砂漠を旅すると、思いがけなく、咲き乱れる花々や、数百年朽ちることのない巨樹に出会ったりします。緑なす日本で、今、人々の気持ちは“砂漠”化しているようにも思えますが、しかし、常にわれわれの根底には夢のような花園や、深い巨木の杜が存在します。そういった幻視を、今日の公演は我々の目の前に現実化してくれるのではないのでしょうか？
楽しみです。
最後になりましたが、研究所の今後のご発展を心からお祈り申し上げます。

大友 悦夫



布山 さと美

仙台ノイエタンツ研究所主任教師
(社)現代舞踊協会東北支部運営委員

光陰矢のごとし—50周年公演は、母—春日静枝も父—布山正直も元気で、私は妊娠8ヶ月の大きなお腹で舞台に立ち、皆で成し遂げました。
あれからもう10年が経つとは早いものです。
今日の60周年も天国から皆を見守ってくれていることでしょう。
千尋&春日で始めたこの研究所を、次代をになう者として頑張っていきたいと思っています。
これまで踊りを通して関わって下さった方々に心から感謝申し上げます。

布山 さと美

■日 時 / 2012年 7月1日(日) 1:00pm開演
(12:30pm開場) ■会 場 / 電力ホール

スタッフ	演出	千尋 洋子	舞台監督	森 莊 太
	構成振付指導	布山 さと美	照明	志賀照明研究所
	振付助手	後藤 典子	放送	田部 初枝
	指導	谷内 亜希		
	指 導	佐々木 恵美		